

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年01月14日

計画の名称	鉄道立体による地域間交流の円滑化計画（防災・安全）（交通拠点連携集中支援）												
計画の期間	平成30年度～平成30年度（1年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	横浜市												
計画の目標	天王町駅付近から横浜新道付近にかけて鉄道を高架化することにより、地域交通の円滑化及び、地域の一体化による生活環境の向上や踏切事故の解消を図ります。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,829	A	1,829	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
1	事業区間内の開かずの踏切数を8箇所削減する。 事業区間内の開かずの踏切数（ピーク時の踏切交通遮断時間が40分以上の踏切）	H30当初 8箇所	箇所	H30末 0箇所

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
連続立体交差事業の通常補助制度創設に伴い、計画を変更する。												

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	横浜市	直接	横浜市	S街路	改築	星川天王町駅間連続立体 交差	鉄道高架 1.9km	横浜市						1,829	1.2	-
											小計						1,829		
											合計						1,829		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を行いました。	令和2年度
	公表の方法 横浜市ホームページ
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	事業区間である相模鉄道本線の星川駅から天王町駅（約1.9km）において、全線を高架化し、これに伴い7か所の踏切の立体化と1箇所踏切を廃止した。その結果、ピーク時には1時間あたり55分あった踏切遮断時間が0分となったほか、最大で330mあった自動車渋滞が0mとなり、踏切による渋滞損失が解消された。このほかにも踏切事故の減少、通学路の安全性の向上、災害時の物資輸送・救急救命活動の円滑化に寄与している。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
【学識経験者意見】 目標を無事に達成し、多方面で事業効果が現れていることを評価したい。	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	0箇所
	最終実績値	0箇所